

2033年旧暦閏月問題について

見解発表



一般社団法人

日本カレンダー暦文化振興協会

Japan Association for Calendars and Culture Promotion

2015年8月28日（金）

2033年旧暦閏月問題とは（１）

- ❖ 2033年から2034年にかけて、旧暦の日付が決められなくなる問題
- ❖ 日常生活になじみのある大安、仏滅などの六曜にも影響
※旧暦の正月元日が先勝、2月1日が友引、3月1日が先負、4月1日が仏滅・・・
- ❖ 伝統や風習を重んじるわが国にとっては、文化に関わる事態となる
※冠婚葬祭、年中行事、俳句、占い・・・

2033年旧暦閏月問題とは（2）

- ❖ 旧暦の日付が決められない
→ 正確には月名、閏月が決められない
- ❖ 旧暦の月名、閏月の由来となる“中気”と、一日を決める“新月”のタイミングが例年と異なり、月名、閏月が決められない
※ 中気のない月に閏月を入れるという原則がある
- ❖ 中気を決める方法として、黄道上の太陽の位置を“時間”ではなく“角度”で12等分して決める「定気」がこの問題の要因ともなっている
※ 「定気」に対して「平気」では冬至からはじまる1年を時間で12等分する

2033年旧暦閏月問題とは（3）

- ❖ 現代では旧暦は廃止とされ、公的機関（国立天文台など）は問題解決にノータッチ
- ❖ 誰かがどこかで決めなければ、多種の旧暦が存在し、社会的に混乱することとなる

2033年旧暦閏月問題とは（４）

新月	中気	閏7月案	閏11月案	閏正月
7.26	8.23処暑(7月中)	7月	7月	7月
8.25		閏7月	8月	8月
9.23	9.23秋分(8月中)	8月	9月	9月
10.23	10.23霜降(9月中)	9月	10月	10月
11.22	11.22小雪(10月中) 12.21冬至(11月中)	10月	11月	11月
12.22		11月	閏11月	12月
1.20	1.20大寒(12月中) 2.18雨水(正月中)	12月	12月	1月
2.19		正月	正月	閏正月
3.20	3.20春分(2月中)	2月	2月	2月

・ 閏月の配置には主に3つの案があり、いずれか1つを選択することができない

有識者団体、暦文協での取り組み

- ❖ 2009.12.19 「暦の会」 創立35周年シンポジウム
- ❖ 2010.3.26 「日本暦学会」 総会記念講演
- ❖ 2014.4.4 「暦文協」 第1回シンポジウム @東京
- ❖ 2014.7.25 「暦文協」 第2回シンポジウム @大阪
- ❖ 2015.4.3 「暦文協」 第3回シンポジウム @東京

万年暦の実例調査 (1)

項番	編著者	文献名	(最終)出版年	閏月	説明
1	阿部熹作 著	陰陽暦対照万年暦鑑	1914		1921年まで
2	日本宗教時報社	陰陽暦対照万年暦	1954		1975年まで
3	佐藤六竜・横井伯典 著	方位の見方	1956		旧暦記載なし
4	日本宗教時報社	万年暦	1962		2003年まで
5	阿部泰山 著	阿部泰山全集 第1巻 (万年暦)	1965		2000年まで
6	石橋菊子 著	四柱真髓推命の秘訣：万年暦	1971		旧暦記載なし
7	天社土御門神道本庁造暦部 編纂	続万年暦：陰陽対照九星配置	1978		1979年まで
8	黒坂紘一・河村真光 著	20世紀の暦：朔望万年暦	1994		2000年まで
9	西沢宥綜 編著	暦日大鑑：明治改暦1873～2100年 新旧暦・干支九星六曜対照	1994	閏11月	閏7月案も併記
10	槇玉淑 著	昭和・平成万年暦	1995		2017年まで
11	増井佐羊子 著	運命の明鑑 (万年暦)	1999	閏7→11月	1991年版と1997年版 の間で変更

万年暦の実例調査 (2)

12	暦の会 編著 (西沢宥綜 編の部分)	暦の百科事典	1999	閏11月	項番9を参照
13	日外アソシエーツ編集部 編	方位21世紀暦の見方	2000	閏11月	
14	甲斐郁子・山田凰聖 編	万年暦	2002		旧暦記載なし
15	小林義磋暉・小林令風 編著	萬年暦：明治・大正・昭和・平成	平成 萬年暦	閏11月	
16	森千命 著	平成百年蔵千萬年暦：大正元年～15年昭和元年～ 63年・平成元年～100年	2004		旧暦記載なし
17	三田村祥山・三田村恵兆・里見龍元ほか	万年暦 大正元年～平成50年	2007	閏11月	
18	武田考玄 編著	命理・遁甲万年暦 寛政12年〈一八〇〇年〉-平成52年〈二〇四〇年〉	2009		2021年以降旧暦記載なし
19	東海林秀樹 監修	精解吉象万年暦：気学、紫微斗数、推命、断易活 用：大正元年(1912)～平成60年(2048)	2010	閏11月	
20	榎中村文聡監修 富久純光 篠原千牧・知久利雄編集玉淑 著	運命学宝典(万年暦)	2011	閏11月	
21	天象学会(福田有典 ほか)	平成・萬年暦	2012	閏11月	
22	能勢眞観 著	総合万年暦	2013	閏11月	
23	山道帰一 著	風水・擇日万年暦：1924～2064：カラー版	2013	閏11月	

解決案の分類

暦法

太陰太陽暦法

中国式

定朔法

平気法

⑤ ④

定気法

時憲暦

②

天保暦式置閏法

平山条文
(矛盾あり)

①

⑧ 閏7月になる案

⑥ 閏11月になる案

⑩ 閏正月になる案

⑫ ⑬

③ ⑦

⑪

バビロニア式

インド式

協議内容（１）～13案の検証作業～

項番	2033-2034 年の閏月	過去の日本 の万年暦	不一致 中気等	名称	閏月とする太陰暦月	無 矛盾性	単純性	既存との 整合	使用 実績
1	決定 不能	—	欠月 発生	天保暦 (平山条文)	二至二分が本月に含まれるよう に、候補となる無中気月から天 文方が都度判断で選択した月	×	×	○	○
2	閏十一月	大半が採用	秋分 雨水 など 4つ	時憲暦 (康熙甲子元法)	前後の冬至を含む月の間隔が中 12か月の区間の最初の無中気月	○	△	1851-2年 と2728-9 年が×	○ (中国)
3				天保暦+冬至優先	前後の冬至・二至・二至二分を 含む月の間隔が中12・6・3か 月の四半期区間の最初の無中気 月	○	×	○	×
4				定気法と平気法の 折衷	定気の冬至の間を時間で12等分 した瞬間を含まない月	○	○	×	△
5				平気法	独自公式で平気の中気を計算 し、無中気月となる月				

協議内容（２）～13案の検証作業～

項番	2033-2034 年の閏月	過去の日本 の万年暦	不一致 中気等	名称	閏月とする太陰暦月	無 矛盾性	単純 性	既存との 整合	使用 実績
6	閏十一月	大半が採用	秋分 雨水 など 4つ	冬至+暦年境界 優先	冬至を含む月が11月となるようにし、候補月が当年と翌年に分散する場合は当年に属する方の無中気月	×	×	○	△
7				前後閏月平均案	通常は天保暦置閏法により、天保暦置閏法で決定不能の場合のみ、確定している前後の閏月の中間にもっとも近い無中気月	△ (複数 同格時 要細則)			×
8	閏七月	一種のみ存在を確認。 ただし同一編者が後に閏十一月を採用した改訂版を出版	冬至 雨水	最少不一致案	一連の無中気月のうち、不一致となる中気がもっとも少ない無中気月				×
9				(時憲暦当初の)万年書	一連の無中気月のうちの最初の月	○	○	1851-2年と 2728-9年が ×	△

協議内容（3）～13案の検証作業～

項番	2033-2034年の閏月	過去の日本の万年暦	不一致中気等	名称	閏月とする太陰暦月	無矛盾性	単純性	既存との整合	使用実績
10	閏正月	採用例なし	秋分 大寒 など 4つ	時憲暦[改]	前後の冬至を含む月の間隔が中12か月の区間の最後の無中気月	○	△	○	×
11				天保暦+冬至優先[改]	前後の冬至・二至・二至二分を含む月の間隔が中12・6・3か月の四半期区間の最後の無中気月	○	×	○	×
12	閏八月	採用例なし	なし	猪瀬前都知事案	暦日の始まりをUTC+11の午前0時とし、上記の何れかの置閏法で選択した無中気月	— (合わせて採用する置閏法に依存)		×	×
13	閏七月、閏十一月、閏正月のうちの何れか	—	閏月による	籤引き	一連の無中気月のうちから抽選で選択された月	—	○	—	△ (中世に遡る)

結論 (1)

複数ある閏月候補の内、閏11月を推奨する

- ❖ 伝統的な太陰太陽暦では冬至が重視されてきた
ゆえに冬至を尊重し、その当月に11月が配置されることが望ましい
- ❖ 出版済み万年暦のほとんど全てが閏11月を採用しており、
それらに訂正の必要がなく、社会的混乱を回避できる
- ❖ 議論の俎上にあがった有力な置閏ルールが全て閏11月を支持しており、今ここで置閏ルールを決定せずとも推奨できる

結論 (2)

置閏ルールについては検討を継続する

- ❖ 西暦2033年に閏11月を選択しただけでは置閏ルールを特定できない
- ❖ 定気法を使う場合、
今回、閏正月を採用しない→西暦2147年は閏11月となる
今回、閏7月を採用しない→西暦2223年は閏9月となる
ルールを決めないことによる混乱は、さらに遠い将来まで起こらない
- ❖ 置閏ルールの得失についての分析結果の発表は今回が初めてであり、これをベースに広く意見を求めるという手順が望ましいと判断した



一般社団法人

日本カレンダー暦文化振興協会

Japan Association for Calendars and Culture Promotion
